

MEDICINE FOR TREATING DERMATOSIS SUCH AS ATOPIC DERMATOSIS

特許公報番号 JP6321795 (A)
公報発行日 1994-11-22
発明者 KUGA MASAAKI
出願人 KUGA TAKAAKI; KUGA MASAAKI
分類:
— 国際: A61K9/06; A61K35/12; A61K36/00; A61P17/06; A61K9/06; A61K35/12; A61K36/00; A61P17/00; (IPC 1-7): A61K35/78; A61K9/06; A61K35/12
— 欧州:
出願番号 JP19930141135 19930507
優先権主張番号: JP19930141135 19930507

要約 JP 6321795 (A)

PURPOSE: To obtain the therapeutic medicine not having a side effect on various skin diseases such as atopic dermatitis difficult in their treatments, and extremely large in the treatment effects.

CONSTITUTION: Genuicols such as Astragalus radix, Angelicae radix, Cinnamomi cortex, Peoniacae radix, Rehmanniae radix, Coptidis rhizoma, Scutellariae radix, Phellodendri cortex, Adonis radix, Sesseleae radix, Nepeta japonica, Atractylodes lancea L. Rhei rhizoma, Asplenium oligophlebium Baker, Prunus cortex, and Zanthoxyli Fructus are suitably combined with each other, extracted with a vegetable oil such as olive oil, filtered, and further treated by other methods to remove solid contents. The obtained extract is dissolved in a horse oil and honey, and subsequently cooled under stirring to produce an ointment agent.; This therapeutic medicine for various skin diseases contains the ointment agent as a main ingredient.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-321795

(43) 公開日 平成6年(1994)11月22日

(51) Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 35/78	ADA W	7822-4C		
9/06	G	9455-4C		
35/12		7431-4C		

審査請求 未請求 請求項の数9 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願平5-141135	(71) 出願人	592151890 久我 高昭 愛媛県新居浜市坂井町3丁目14番52号
(22) 出願日	平成5年(1993)5月7日	(71) 出願人	593077490 久我 正明 愛媛県北条市辻826番地5号
		(72) 発明者	久我 正明 愛媛県北条市辻826番地5号

(54) 【発明の名称】 アトピー性皮膚炎等の皮膚疾患治療薬

(57) 【要約】

【目的】 治療が困難なアトピー性皮膚炎等の各種皮膚疾患に対して副作用がなくかつ、治療効果のきわめて大きい治療薬を得ることである。

【構成】 オウギ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウの生薬を組合わせて、これらを植物油で煮出して得たエキスを馬の油を組み合わせたものを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項2】 キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを植物油で煮出して得たエキスを馬の油を組み合わせたものを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項3】 キンギンカ、トウキ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを植物油で煮出して得たエキスを馬の油を組み合わせたものを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項4】 キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウの生薬を組合わせて、これらを植物油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項5】 キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを植物油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項6】 キンギンカ、トウキ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを植物油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項7】 キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項8】 キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【請求項9】 キンギンカ、トウキ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウの生薬を組合わせて、これらを馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とすることを特徴とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明はアトピー性皮膚炎の皮膚疾患治療薬として利用される。その他、口内炎、外耳道炎、蓄膿症、火傷、鼻炎による嗅覚低下症、舌痛症、しもやけ、主婦湿疹、その他の皮膚疾患治療薬として利用される。

【0002】

【従来の技術】 従来は、同一人出願による特開平5-93519号及び特許願平成5年3月25日提出のアトピー性皮膚炎等の皮膚疾患治療薬がある。しかしながら、それらの治療薬は一部のアトピー性皮膚炎等に対して、十分な治療効果が出ない場合がある。又、同じく従来よりアトピー性皮膚炎、口内炎、外耳道炎等に対する治療薬として副腎皮質ステロイドホルモン剤があるが、この薬品のもつ全身症状、皮膚の黒色化、非特化等の副作用のため使用を中止せざるをえないことも多く問題視されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 このため従来のアトピー性皮膚炎等皮膚疾患治療薬の欠点を解決するために、アトピー性皮膚炎に作用してかゆみを抑え、副作用がなく、かつアレルギーによる炎症をより効果的に抑えて、治療効果がより大きい治療薬を得ることである。現在アトピー性皮膚炎に対して副腎皮質ステロイドホルモン剤が有効な治療剤とされているが、副腎皮質ステロイドホルモン剤のもつ全身症状、皮膚の黒色化、非特化等の副作用のため使用を中止せざるをえないことも多く、これにかわり得る外用剤が強く望まれている。

【0004】

【課題を解決するための手段】 キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスを馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第2の手段としてキンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスを馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第3の手段として、キンギンカ、トウキ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴ

ン、オウバク、サンシシ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスを馬の油を組み合わせたものを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第4の手段として、それらの生薬を適宜組合せて、オリーブ油等の植物油で煮出して得たエキスを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。第5の手段として、それらの生薬を適宜組合せて、馬の油で煮出して得たエキスを有効主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。

【0005】

【作用】本発明の治療薬を局所に軽く塗布するか、ガーゼや紙などに伸ばして貼布することによりアトピー性皮膚炎に対して副作用がほとんどなく、かゆみを抑えるためその患部への引っ掻き傷による患部の悪化が防止でき、かつアレルギーによる炎症をより効果的に抑えていくため、きわめて治療効果が大きく作用する。そして皮膚を正常に回復させることはもちろん、副腎皮質ステロイドホルモン剤の使用により変色した皮膚の色を正常に戻すこともできる。その他、口内炎、外耳道炎、蓄膿症、火傷、鼻炎による嗅覚低下症、しもやけ、舌痛症、その他の皮膚疾患に対しても、有効に作用する。

【0006】

【実施例1】キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10gの割合で用いるのが好ましい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。キンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0007】

【実施例2】実施例1における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0008】

【実施例3】実施例1におけるオリーブ油を胡麻油、サ

フラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0009】

【実施例4】実施例1におけるオリーブ油をαリノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0010】

【実施例5】実施例1、実施例2、実施例3、実施例4におけるエキスをヒノキチオールを添加したもの。

【0011】

10 【実施例6】キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ3g、オウヒ3g、サンショウ3gの割合で用いるのが好ましい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。キンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ3g、オウヒ3g、サンショウ3gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋100gと馬の油400gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

30 【0012】

【実施例7】実施例6における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0013】

【実施例8】実施例6におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

40 【0014】

【実施例9】実施例6におけるオリーブ油をαリノレン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0015】

【実施例10】実施例6、実施例7、実施例8、実施例9におけるエキスをヒノキチオールを添加したもの。

【0016】

【実施例11】キンギンカ、トウキ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショ

ウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに馬の油と蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ5g、オウヒ5g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。キンギンカ20g、トウキ20g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ5g、オウヒ5g、サンショウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋10gと馬の油40gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0017】

【実施例12】実施例11における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0018】

【実施例13】実施例11におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油等その他の植物油としたもの。

【0019】

【実施例14】実施例11におけるオリーブ油をα/レン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0020】

【実施例15】実施例11、実施例12、実施例13、実施例14におけるエキスをヒノキチオールを添加したもの。

【0021】

【実施例16】キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10gの割合で用いるのが好ましい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。キンギンカ20g、トウキ20g、

ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋50gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0022】

10 【実施例17】実施例16における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0023】

【実施例18】実施例16におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0024】

【実施例19】実施例16におけるオリーブ油をα/レン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

20 【0025】

【実施例20】実施例16、実施例17、実施例18、実施例19におけるエキスをヒノキチオールを添加したもの。

【0026】

【実施例21】キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウ等の生薬を適宜組合わせて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ3g、オウヒ3g、サンショウ3gの割合で用いるのが好ましい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。キンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ3g、オウヒ3g、サンショウ3gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80～100℃の時、蜜蝋50gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0027】

【実施例22】実施例21における蜜蝋をワセリンもし

くは、その他の基剤としたもの。

【0028】

【実施例23】実施例21におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0029】

【実施例24】実施例21におけるオリーブ油を α / β リン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0030】

【実施例25】実施例21、実施例22、実施例23、実施例24におけるエキスをヒノキチオールを添加したもの。

【0031】

【実施例26】キンギンカ、トウキ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらをオリーブ油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、

シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ5g、オウヒ5g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。次に本発明の薬剤の製造の1例を示す。キンギンカ20g、トウキ20g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ5g、オウヒ5g、サンショウ5gの生薬を約140℃のオリーブ油500ccで約5分間煮出して得た抽出液を濾過してエキスを得る。そしてエキスの温度が約80〜100℃の時、蜜蝋500gを加えて溶解、攪拌しながら冷やしてつくった薬剤。

【0032】

【実施例27】実施例26における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0033】

【実施例28】実施例26におけるオリーブ油を胡麻油、サフラワー油、ナタネ油、月見草油、ヒマワリ油、コーン油等その他の植物油としたもの。

【0034】

【実施例29】実施例26におけるオリーブ油を α / β リン酸系のシソ油、エゴマ油等その他の植物油としたもの。

【0035】

【実施例30】実施例26、実施例27、実施例28、実施例29におけるエキスをヒノキチオールを添加した

もの。

【0036】

【実施例31】キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ等の生薬を適宜組合せて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10gの割合で用いるのが好ましい。

【0037】

【実施例32】実施例31における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0038】

【実施例33】実施例31、実施例32におけるエキスをヒノキチオールを添加したもの。

【0039】

【実施例34】キンギンカ、トウキ、ケイヒ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ボウフウ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、ケイヒ3g、シャクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ボウフウ10g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ3g、オウヒ3g、サンショウ3gの割合で用いるのが好ましい。

【0040】

【実施例35】実施例34における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0041】

【実施例36】実施例34、実施例35におけるエキスをヒノキチオールを添加したもの。

【0042】

【実施例37】キンギンカ、トウキ、シャクヤク、ジオウ、オウレン、オウゴン、オウバク、サンシシ、ケイガイ、ソウジュツ、ダイオウ、サイコ、オウヒ、サンショウ等の生薬を適宜組合せて、これらを馬の油で煮出して得られた抽出液を濾過、その他の方法により固形物を除去してエキスを得る。これに蜜蝋を入れて溶解、攪拌しながら冷やして膏剤としたものを主成分とする各種皮

膚疾患に対する治療薬。上記の生薬は適当な割合で用いることができるがキンギンカ20g、トウキ20g、シヤクヤク10g、ジオウ20g、オウレン5g、オウゴン10g、オウバク3g、サンシシ5g、ケイガイ5g、ソウジュツ10g、ダイオウ10g、サイコ5g、オウヒ5g、サンショウ5gの割合で用いるのが好ましい。

【0043】

【実施例38】実施例37における蜜蝋をワセリンもしくは、その他の基剤としたもの。

【0044】

【実施例39】実施例37、実施例38におけるエキスをヒノキチオールを添加したもの。

【0045】

【発明の効果】治療が困難なアトピー性皮膚炎に対してこれらの薬を用いることにより、副作用がほとんどなく、その患部のかゆみが抑えられるため引っ掻き傷による患部の悪化が防止でき、かつアレルギー等による炎症をより効果的に抑えるため従来よりきわめて有効な治療ができる。そして皮膚を正常に戻すと共に、副腎皮質ステロイドホルモン剤の使用による副作用で変色した皮膚を正常な色に戻すこともできる。またこれらの薬を用いることにより口内炎、外耳道炎、火傷、鼻炎による嗅覚低下症にも副作用がなく、かつきわめて有効な治療ができると共に、舌痛症、蓄膿症、しもやけ、主婦湿疹その他の皮膚疾患にも副作用がなく、これらの薬は大変有効である。